

平成28年度行政評価シート【個表】

平成 28 年 6 月 30 日

評価対象事業		評価者	スポーツ課長 江口 達也	
市民-33 学校体育施設開放事業		☒ 自治事務	主管課	スポーツ課
		☐ 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	スポーツ・レクリエーション	施策の方針	市民スポーツ・レクリエーションの推進

1 事業の目的

対象	市民等
意図	地域の学校体育施設を開放することで、身近なところで気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーションを振興するため。
効果	市民のスポーツ・レクリエーションの推進を図る。

2 平成27年度に実施した事業の概要

地域に身近な学校の体育館・校庭・プールを開放し、身近なところでスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境を提供した。

3 事業費等基礎データ

データ区分	26年度決算	27年度決算	データ区分	28年度当初予算	備 考
人 口	177,464人	177,243人	人 口	176,869人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
世 帯 数	80,368世帯	80,676世帯	世 帯 数	80,928世帯	
事業の対象者数			事業の対象者数		
運営資源状況			当初予算(千円)	24,451	
国県支出金			国県支出金		
地方債			地方債		
その他	296	492	その他	450	
一般財源	23,691	22,640	一般財源	24,001	
人員配置数	0.6	0.6	人員配置数	0.6	
人件費(千円)	4,531	4,620	人件費(千円)	4,676	
総事業費(千円)	28,518	27,752	総事業費(千円)	29,127	
市民1人当りの経費(円)	161	157	市民1人当りの経費(円)	165	
対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか			1. ある	
	関連・類似事業との統合はできないか			3. 統合できない	
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか			3. 変わらずにある	
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい			3. 廃止・休止による影響は大きくある	
	今後も市が実施すべき事業か			5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある	
有 効 性	事業の成果は得られているか			2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である	
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい			3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している	
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入	△-1. 今は受益者負担を求めているが、今後、負担の導入を検討する必要がある		
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済	○-1. 既に市民等と協働して事業を実施しているが、協働のあり方等の見直しが必要である		
			協働実施済の場合のパートナー	学校体育施設開放運営協議会	
事業内容の方向性	☐ a: 事業内容を見直す ⇒	見直しの種類	☐ 拡大	見直しの内容	
	☒ b: 事業内容は現状通りとする		☐ 縮小		
事業内容の方向性	☐ c: 事業を休止又は廃止する		☐ その他		
	☐ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒		事業へ統合		
予算規模の方向性	☐ A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	・体育館の照明使用料相当額の受益者負担の導入について検討を行う。		
	☒ B: 予算規模は現状維持とする		・改築工事が完了した大船中学校の体育施設の開放について、その手法を検討し、必要に応じ、資機材の配備に係る予算措置を行う。		
総評(評価に対する考え方、根拠)	今後も地域の学校体育施設を開放することで、身近なところでスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境を提供していく。				

平成27年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	・持続的な運営のため、受益者負担の導入が必要である。 ・開放用品については相当の年数が経過したものもあり、それらの現況を再確認し、更新の可否や更新スケジュールを検討する必要がある。		
課題解決のために行った平成27年度の取組	・市立小中学校の校庭・体育館・プールを開放し、身近なところでスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境を提供した。		
未解決の課題、新たな課題とその理由	・持続的な運営のため、受益者負担の導入が必要である。 ・開放用品については相当の年数が経過したものもあり、それらの現況を再確認し、更新の可否や更新スケジュールを検討する必要がある。 ・校庭の夜間照明設備については、LED化を進めていく必要がある。		

- ☐ 解決
- ☐ 一部解決
- ☒ 未解決

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	学校開放校数								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	25校	54校	19校	43校	36校	73校	6校	8校	12校

比較事項	プール開放日数								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	440日	175日	318日	280日	358日	325日	90日	0日	17日

比較事項	学校開放屋外運動場夜間照明設備設置校								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	2校	3校	4校	9校	3校	0校	0校	0校	0校

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方									
----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	学校体育施設開放利用者数(プール以外)					単位	人	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
市民スポーツの振興を図るため、市内市立小中学校の体育施設を開放した。	目標値	350,000	350,000	350,000	350,000	350,000		350,000		
	実績値	307,362	320,509							
	達成率	88%	92%							

指標の内容	学校開放団体利用数					単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
市民スポーツの振興を図るため、市内市立小中学校の体育施設を開放した。	目標値	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000		15,000		
	実績値	11,336	11,875							
	達成率	75.6%	79.2%							

指標の内容	学校体育施設開放利用者数(プール利用)					単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
市民スポーツの振興を図るため、市内市立小中学校の体育施設を開放した。	目標値	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000		30,000		
	実績値	28,511	22,376							
	達成率	95.0%	74.6%							

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方										
-----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

● 事業に関する特記事項

☐ 第3期基本計画前期実施計画重点事業	☒ 19節で予算措置している補助金が含まれる事業
--	--